

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 9 月 9 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12529

研究課題名(和文) 障がい児の父親に焦点をあてた包括的地域生活ケアシステムに関する研究

研究課題名(英文) Research on comprehensive community life care system focusing on fathers of children with disabilities

研究代表者

長谷川 珠代 (Hasegawa, Tamayo)

福岡大学・医学部・准教授

研究者番号：30363584

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は障害児の父親の育児の実態把握とサポートプログラムの構築を目的に実施した。

当初計画した、医療的ケア児の父親への調査協力者を得ることが困難であったため、対象の幅を広げ、発達障害児の父親や児童発達・放課後等デイサービス事業所管理者等に聞き取りをすることで実態把握に努めた。その結果、父親は専門職と関わる機会が少なく、障害への知識、育児技術を向上させたい思いがあることが示され、仲間づくりに関しては障害の状況によってニーズが異なることが示唆された。以上より、父親の育児サポートプログラムとして、新しい姿勢保持理論と技術に関する講習会を実施し、延べ78名の専門職と述べ10組の家族の参加があった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会的意義は、障害児の父親の育児実態が把握でき、その結果、育児サポートプログラムが検討できたことである。父親の障害児育児では専門職と関わる機会が少なく、障害の知識や技術を向上させたい思いが示され、仲間づくりについては障害によって異なることが示された。育児サポートプログラムは、父親の障害に関する育児技術の向上、児に関わる専門職との交流の活性化、自らの役割や意義の再発見、を目指した講習会等の企画を継続的実施の有効性が考えられた。

学術的な意義として、本研究の結果を論文、学会発表を通して社会に発信することができ、研究の次段階として、父親と専門職の関りに焦点化した課題を見出すことができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to understand the actual conditions of fathering of children with disabilities and to build a support program.

Since it was difficult to obtain a collaborator for the father of a medical care child, which was initially planned, the scope of coverage was expanded and interviews were conducted with the father of a child with developmental disabilities and the day service business office manager for child development and after school. I tried to understand the actual situation by doing. As a result, it was shown that fathers had few opportunities to interact with professionals and wanted to improve their knowledge of disabilities and child-rearing skills.

Based on the above, as a childcare support program for fathers, a seminar on new attitude maintenance theory and technology was held, with a total of 78 professionals, with 10 families participating.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：育児サポートプログラム 父親と専門職との関り活性化 障害の知識・技術向上 役割や意義の再発見

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

我が国において訪問看護を利用する小児の数は、年々増加しており、社会的支援の必要性は今後更に高まることが予想された。医療を必要とする障がい児は、社会的サービスを利用する際に様々な条件が課される場合が多いため、サービス利用がしにくく介護者の負担が大きい現状にあった。また近年、日本の育児は夫婦協働体制が取れるよう社会的に整えられてきたものの、障がい児の主たる介護者は、依然として母親が中心であり、父親の障がい児育児の実態や支援ニーズは明らかになっていない現状がある。

以上のことから、障害児の父親の日常生活における育児の実態と支援ニーズの把握が重要と考えた。

2. 研究の目的

本研究は医療的なケアを必要とする障がい児と家族のより良い地域生活ケアシステムを検討するため、障がい児の父親（以下、父親）を対象に、父親の障がい児育児の実態と障がい児育児における支援ニーズを明らかにし、父親の障がい児育児サポートプログラムを構築することを目的とする。

3. 研究の方法

医療的ケアを必要とする障がい児の父親を対象に、以下の4項目について平成29年度より3年計画で遂行することとした。

- 1) 障がい児育児に関する実態調査として、個別聞き取り調査の実施
- 2) ニーズ調査として、フォーカス・グループ・インタビュー調査の実施
- 3) 1) 2) の結果を踏まえた障がい児育児サポートプログラムモデルの作成
- 4) 3) で作成した育児サポートプログラムモデルの適切性評価として、障がい児育児に関する市民講座の開催

研究遂行計画

計画内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度
1. 障がい児育児に関する実態調査（父親への個別聞き取り調査）	○		
2. 障がい児育児における支援ニーズ調査（フォーカス・グループ・インタビュー調査）		○	
3. 父親の障がい児育児サポートプログラムモデルの作成			○
4. 障がい児育児に関する市民講座（プログラムモデルの評価）			○

4. 研究成果

平成29年度ならびに平成30年度に計画をしていた障害児の父親に対する個別聞き取り調査やフォーカス・グループ・インタビューへの参加協力者を得ることが困難であった。そのため、医療的ケア児だけでなく、発達障害児の父親にも対象の幅を広げ、更

に障害児を育てる父親・母親に関わる児童発達・放課後等デイサービス事業所の管理者や当事者グループ代表者等に障害児育児に関する父親、母親の状況について聞き取り、把握に努めた。その結果、父親が専門職と関わる機会が少ないこと、障害への知識、育児技術を向上させたいという思いがあること、自分の子どもを育てるという当たり前の感覚でいることが示された。仲間づくりについては、障害の状況によって異なることが示唆された。

それらの情報と研究者が研究開始までに実施していた既存の調査結果（父親の障害児育児に関するインタビュー調査）を基に、障害児育児サポートプログラムを作成した。

障害児育児サポートプログラムとは、父親の①障害児に関する育児技術の向上、②児に関わる専門職との交流の活性化、③育児に関わる自らの役割や意義の再発見、を目指した講習会等を継続的に企画・実施をするものであり、父親の育児サポートとして有効なのではないかと考えられた。

最終年度である平成 31 年度には、本研結果を論文、学会発表という形で社会に発信することができた。また、障害児育児サポートプログラムとして、新しい障害児の姿勢保持理論と技術に関する講習会を実施し、延べ 78 名の専門職と述べ 10 組の家族の参加があった。講習会では、父親だけでなく、祖父の参加も見られ、様々な家族へのアプローチができたと考える。また実施後のアンケートより、家族から講習会の継続的な開催希望が示されたこと、障害児に様々な立場に関わる専門職の障害児支援の現状と課題、支援に至ったきっかけなどについて、今後、更に研究を進めることで、父親と専門職の関りや支援の在り方が検討できることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tamayo Hasegawa Yasuko Koja Yoko Tamashiro	4. 巻 38
2. 論文標題 Japanese father's experience with children with profound intellectual and multiple disabilities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 琉球医学会誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Tamayo Hasegawa, Yasuko Koja, Yumiko Endoh, Yoko Tamashiro, Misuzu Takahara
2. 発表標題 Fathers' experience about living with profound intellectual and multiple disabilities
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----